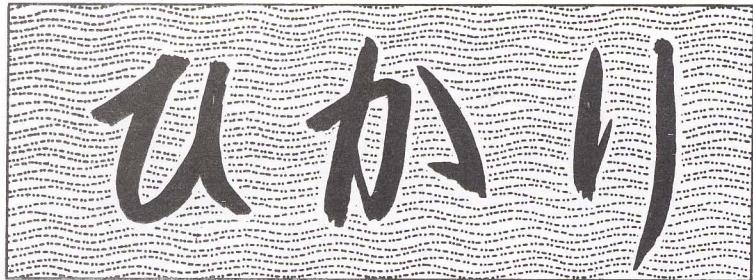


才市は臨終すんで葬式すんで
みやこにここすませてもろて
なむあみだぶとうきよにおるよ

妙好人 浅原才市翁



No. 71

2007年(平成19年)
3月1日

発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
鈴木悟峰



第12回真宗法座(於即生寺)

阿弥陀經に聞く

菩薩

ここから、菩薩さまです。おシャカ様のお弟子に加えて、必ず大乗經典には菩薩さまが登場します。菩薩とは、さとりを求める人という意味であります。大乗佛教では、自ら菩薩を求め一切衆生を利益しようととする者をいいます。小乗佛教の自利のみを求めるのに対し、自分以外のためということを強調するのが菩薩の修行です。

☆文殊師利法王子

文殊の智慧です。文殊師利はマンジュシユシリーリーの音写で、漢訳では、妙吉祥・妙徳といい、法事の時に勤める『大經』には妙徳菩薩と訳されています。浄土真宗のお寺には阿弥陀さまと親鸞さまなどしか御安置していませんが、これらの菩薩さまと一緒に、おシャカ様のお説教を聞いているというこ

とのことです。

☆阿逸多菩薩

梵語のアイッタの音訳で、生まれながらに相好円満であり、外敵のよく勝つ者がないという意味の言葉です。『大經』には慈氏とあります。これは弥勒菩薩の異名です。この弥勒菩薩は兜率天に居られ、将来にこの娑婆に出現され、おシャカ様の後を継いで仏になられる菩薩です。兜率天は、宮沢賢治の『永訣の朝』などにも出てくる弥勒菩薩のお淨土です。

☆乾陀詞提菩薩

香意とか香象と翻訳される菩薩です。『大經』にはこの香象の名前を挙げてあります。

☆常精進菩薩

不休患とも訳され、不惜身命の勇猛心をもって、倦むことなく精進するという意味で、これは菩薩と呼ばれる方々は全て常に精進されているからその菩薩の精進の様子をこの菩薩に代表させられたものでしよう。

(永原智行)

「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案づれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。」

親鸞聖人は叡山で二十年の修業の後、吉水の禅坊に法然聖人を尋ねられ、そこで専修念佛の教えを聞法し修学に勤められました。その中で、ようやく生死出ずべき道を感じられたわけであります。

曠劫多生の間にも出離の業縁知らざりき、本師源空いまさずは、この度虚しく過ぎなまし

この和讃はその時の親鸞聖人の感激と喜びを表したものと思われます。そういう喜びに満ちた修行の中で、多くのお弟子さんとともに色々な議論をし、喜びを分かち合っていたことと思いません。その後、後鳥羽上皇の念佛停止の院宣によって、法然聖人と御弟子七人は流罪、御弟子四人は死罪とされることとなりました。法然聖人は弟子との別れの際、「わたくしはたとえ死刑になつても念佛をやめることはない。お前たちも流罪の地で念佛の教えを広めなさい」と言わされたそうです。これ



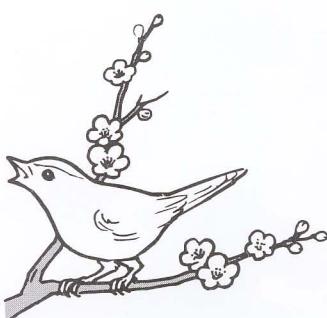
によつて、親鸞聖人は流罪の地で念佛の教えを広め、北陸や関東一円でその教えを広められました。また、その教えを後世の私たちのためになりました。

書物にあらわされたわれであります。冒頭のお言葉は、その教えを深く深く述懐されたものであります。

二十年前、ある年回法要にお参りしました。お勤めし法話をした後、ご馳走を頂いていた時、「お経わけわからん」とある方からお声を頂きました。この言葉は、お経がわからぬという事と同時に、今日自分は何のためにここへお参りしているのかという事も含め、味わい深いお言葉であります。

私たちはありのままを頂き、そして、今日を喜ばせて私たちは差し向けてください。正信偈であり御和讃であり、蓮如上人の御文章であります。

私たちの姿こそ阿弥陀様のお目当てであつて、本願を成就し南無阿弥陀仏として私たちは差し向けてください。それが、正信偈であり御和讃であり、蓮如上人の御文



(北山)

由良町由良町由良町由良町由良町由良町
神戸市

深岩尾尾中岩水流敦
海崎崎崎本崎恵敦
純信ゆり輝笑恵子子
子子子子子子子子
様様様様様様様様

から、次の方に粗品を進呈いたします。
70号の正解は、『御伝抄』でした。正解者の申

4	3	2	1
○ 永 小 百 合	内 閣 総 理 大	優 ○ な 成 績	○ 年 満 作

下の1~4の○内にあてはまる漢字を組み合わせて、現在の本願寺(京都七条堀川)の境内地を寄附した人物名を答えて下さい。

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、所属寺、御感想、御意見等を明記の上、
〒649-1221
日高郡日高町志賀3851
善宗寺内 組長事務所
までお送りください。
※抽選で10名の方に粗品を差し上げます。
※締め切り日 平成19年5月31日
※発表は次号

童話
佛典

形ある仏と形なき仏

むかし、お釈迦様が祇園精舎におられた頃のお話です。コーサラ国に二人の修行を始めたばかりの行者がいて、お釈迦様にお会いしてその尊顔を拝したいと思立ち、祇園精舎のある舎衛国へ向けて出発しました。舎衛国までの道のりは民家もなく、はてしなく広野が続いていました。

戸は至る所で枯れており、二人は暑さとのど渇きに耐えられなくなっています。幸い途中の古井戸にわずか一升ほどの水があるのを見つけ、二人は飲もうとしましたが、その水中にはたくさんの小さな虫がいて、仏教の不殺生戒を守るものには、この水を飲む事はできませんでした。

二人は、「せっかく遠くからはるばる仏様にお会いしたいと苦しい思いをして一人はわずかな水を飲み、

元気を取り戻して舎衛国へと向かいました。もう一人は水を飲まずについにそこで息絶えてしまいました。水を飲まなかつた行者は、佛の戒律を守つた功德によって、直ちに三十三天である忉利天に生まれ変わりました。そして天より舞い降りて、祇園精舎に詣り、お釈迦様に供華・供香をして礼拝しました。

一方の行者は、水を飲んで一時勇氣を得たものの、疲労重なり、やつとの思いで祇園精舎にたどり着きました。彼は早速、広大無辺の輝きをもつお釈迦様の顔を拝み、ぬかずき、涙を流して言いました。

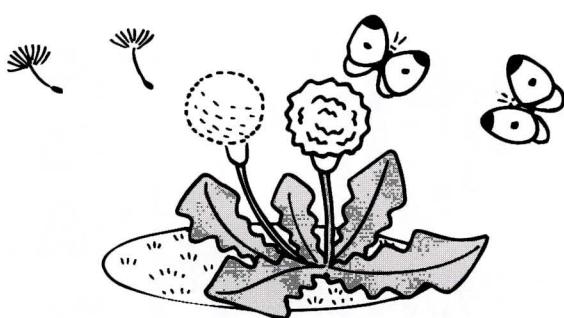
「お釈迦様、私には一人の連れがございました。彼は道中に疲労と飢えと乾きのために命を落としました。どうぞお釈迦様、おかれ、彼らはお互の道を求めて、そこで別れなければなりませんでした。

く知っている。そこに座っている天人はおまえの連れだつたはずだ。彼は戒めを守つたので、天に生まれ変わり、おまえより先に私の所に来ることができたんだ。」と仰せられ、さらに、「おまえは、仏のこの身を見に来たのか。多くの不淨からなつてゐるこの身体を見に来たのか。やがては死によつて消えてしまうこの無常の身体を見に来たのか。なぜおまえは仏の説いた法を見ようとしているのだ。法の連れは、法をしっかりと見ようとしているのだ。おまえの中にこそ清らかな常住の仏の法身があるのだ。おまえの法身が見えるのだ。おまえの連れは、法をしっかりと見た。そうして仏の法身を見ることができたんだ。このたわけものめ。」

それからお釈迦様はやさしい言葉で、「行者よ、おまえは私の形ばかりを見て私の教えである戒めをよく守らなかつたのだ。おまえは今、私を見たとしても、私はおまえを見ない。たとえ私がから何千キロと離れて

丁寧に教えを諭されました。さらには、偈文をもつてお説きになられました。「よく学び、戒めを守るならば、現在も未来も、所願成就す。学ばず、戒めを守らぬならば、今生も来世も、本願成就しないもの。学ばんには、多く聞くをねがえ。義理を解き明かすことには徹せよ。さらばよこしまならじ。」と。

行者の言葉を聞き、お釈迦様は、「ほう、そうだが、そのことなら私はよ



よろこび家族



宇 恵 節 子

院主さんから「よろこび家族」にご指名されたときにはもつたいない事だと、お断わりさせていただこうかと思つておりましたが、決めて一人暮らしの方だた。

からお願いしたい」と頼願され渋々受諾させていただきました。主人とは十年前に死別しました。主人の兄弟二人を戦死で失い、お国のために蓮如上人御一代記聞書に、「仏法には、世間のひまを闊て、きくべし。世間の隙を勤めることが、のぞましいでしよう。

お寺に法事を頼む際に、日曜祝日を選んで日取りを決めることが多くなりました。休日を選ぶ理由は、仕事が優先であり、法事をする側は、家族や案内する縁者の都合に合わせやすいからでしょう。本来は、亡くなった方の祥月命日（月日が同じ日）に法事

もありますが、週に一回のデイサービスを心待ちにしながら、お仮壇の前で、いつも見守つて下さっている阿弥陀さまやご先祖に報恩感謝の生活を送つてゆきたいと思い

一人で寂しいときもありますが、週に一回のデイサービスを心待ちにしながら、お仮壇の前で、いつも見守つて下さっている阿弥陀さまやご先祖に報恩感謝の生活を送つてゆきたいと思い

ます。法事をする側は、接待や雑用等に追わられて大変であります。「法事が終ったから」と言つて、それで終りとは、ならないようになります。大変であります。自分で法事の日をあけて法をきくべき様に思ふ事、浅間敷ことなり。」と仰っています。世間のことを大切であります。命の解決はもっと大切であります。

Q 四十九日までの間、渦巻き線香を使用していますが、一般的の線香との違いを教えて下さい。A まず、お香の種類から説明しますと、お香の原料ともいえる香木（原木）があり、それを加工したり調製して製品化されたもので線香、割香、塗香、抹香などがあります。

もともと、最近ではハーブや花の香りの入った製品も数多く出回っています。さて、線香のなかでも渦巻き線香は、長時間（製品によってはおよそ半日以上）燃え続けた短い線香のように何度も着けたりする煩わしさがないのは言うまでもありませんが、ここで考へてみたいのは、「どうして長時間も線香を着けておかねばならないのか」という事です。おそらく、「四十九日間は、線香を絶やしてはいけない」という迷信というか誰かが言つた事が気になって使用されている

香氣があるがことくなりこれをすなはちなづけてぞ
香光莊嚴とまうとなる
染香人のその身には
香氣あるがことなり
これをするはなづけてぞ
正信偈

日高組通信

三月三十一日(土)午後一時より

平成十八年度日高組定期組会を開催。本年度、また来年度の事業報告・会計報告、役員改選・各部会の部長・副部長の選出を行なう。

【連続研修会（連研）】

第七期連研・二回目を四月十日(土)午後一時三十分より由良連専寺に於いて開催。テーマ

お仮壇のQ&A

Q & A

のではないでしょうか。

仏前で「香を焚く」本来の意味を考えてみますと、お香は、インドに起源をもつ「礼拝の要具」です。

お香をかぐことによって清らかなお淨土を想い、さらには、誰かれど差別することなくゆきわたるお香の薰りから、如來さまのわけへだてなく注いで下さるお慈悲の心にも触れさせていただくという意味があるので。

すなわちお香は、かおりに価値があるのでから、高価でも良質の香を焚いてください。

なお、お線香を使用する場合は、渦巻き線香は使用せず、香炉に立てずにみじかく折つて、香炉の灰の上に、じかに横に置き、焚きましょう。

は「お通夜・葬儀」・「勤行・正信偈」
【総代会】
四月十五日(日)午後一時三十分より大引・浄明寺にて総会を開催。志賀・即生寺にて総会を開催。十八年度物故者追悼法要を勤修。
【日高組納骨団体参拝】
九月二十日(日)、日帰りにて納骨団体参拝を予定しています。

自分達の都合で法事の日を変えさせて頂いた法事だと仰っています。世間のことを大切であります。命の解決はもっと大切であります。

本来こそ、祥月命日の日は内輪で、お参りに勤めまし

ます。